

2022年度 事業報告書
(2022年1月1日～12月31日)

特定非営利活動法人 国連ウィメン日本協会

I 事業の成果

2022年は、前年に続き、コロナ禍の蔓延により、特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会にとっては、思うような活動のできない1年でした。

しかし同時に、会員みんなの工夫・努力により、このような状況下でも活動する道を見出し、一定の成果を上げることが出来た年でもありました。

2月にロシアのウクライナ侵攻が起こり、ウクライナ女性たちへの支援のための寄付集めを開始しました。日本協会としては、これまでにない高額寄付があり、UN Women ウクライナ事務所に送ることができました。

UN Women との関係でいえば、承認協定（JPP）を締結しました。本部との関係がパートナーとして、連携がすすむことを願っています。UN Women 本部のコンサルタントの Sanjay とは Zoom で毎月話し合っています。

UN Women 事務局長の12月3日のWAW参加の際、日本協会は一行をランチに招待しました。そこで非公式にお願いした「寄付を受け取ったUN Women 事務所から寄付の成果について、報告があると寄付された方々が納得され、次の寄付につながる」と寄付の成果報告を要望し日本事務所と会議を持ちました。

国内では、理事会はズームで原則毎月開催し、国際女性デー、国際少女デーのイベントは、ボランティアの支援でオンラインで行いました。また、各チームの会合もオンラインで行っています。小中高生、大学生からの問い合わせにも、オンラインで対応しました。

UN Women 日本事務所と連携して、WEPs の優良企業社員と会合し、UN Women を伝え、理解を深める、といった活動も始めました。この活動を2023年度から寄付につながります。

メルマガの発行部数は、皆さまのご努力で増え、臨時号も8回刊行しました。

こうした従来の広報手段に加え、今年は、ファンドレイジングの専門家とコンサルタント契約を結び、デジタル・ファンドレイジング等、新しい活動も8月1日から開始し、今後の方向性が見えてきました。HPの改正も行っています。

「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」を目指す国連ウィメン日本協会としては、原点を大切にしつつ、同時に新しいテクノロジー等を予算の許す範囲内で取り入れつつ努力していきます。

II 事業内容

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 日本の社会にUN Women についての理解を深めるための広報活動事業

ア 情報発信広報啓発普及事業

- ・内容 ① UN Women、国連ウィメン日本協会、協力協定団体等の活動を広く社会に広報するために、ニューズレター「国連ウィメン日本協会」を制作、発行 21号（1月：3,000部）22号（6月：3,000部）。
- ② ホームページ「国連ウィメン日本協会」の適時更新・改定作業
フェイスブックによる情報発信は随時。
- ③ UN Women本部からのニュースリリース等を随時翻訳し、ホームページに掲載、その他資料等を随時翻訳した。
- ④ メールマガジンを発行し募金・情報の発信に努めた。登録者1,880人
第78号（1月）から第89号（12月）、臨時号（国際女性デー2月、

ウクライナ支援3月、#ともに社会を変えようキャンペーン開始8月、アフガニスタン支援8月、ガールズデー10月、チャリティーコンサート10月、11月、暴力撤廃12月)全20回

⑤ UN Women 及び国連ウィメン日本協会を各地で広報

- ・原田学園鹿児島情報高等学校 理事1人
日時：2月22日(火) 場所：オンライン 参加者：700名
 - ・富士通株式会社 理事4人
日時：7月12日(火) 場所：オンライン 参加者：4名
 - ・横浜市立中川小学校 理事1人
日時：12月5日(月) 場所：オンライン 参加者：40名
- ・日時 通年
 - ・場所 全国
 - ・従事者人員 13人
 - ・受益対象者 一般市民 多数
 - ・支出額 3,297,267円

イ 情報提供・理解促進のための各種事業

内容 ①国連「国際女性デー」オンライン チャリティー・トークイベント
「出会いこそ、生きる力」

登壇者：サヘル・ローズ(俳優)

②国連「国際ガールズデー」オンライン チャリティー・イベント
「ジェンダー平等に向け、今こそ世代を超えた連帯を」

登壇者：櫻井彩乃(ジェンカレ代表)

③国連「女性に対する暴力撤廃週間」チャリティーコンサート
「ウクライナへの祈りコンサート」

演奏者：カテリーナ

- ・日時 ①3月8日(火)19時-20時 ②10月10日(月・祝)10時半-12時
③12月1日(木)19時-20時15分
- ・場所 ①② Zoom ウェビナー(オンライン開催) ③東京ウィメンズプラザ
- ・従事者人員 ①②各13人、③14名
- ・受益対象者 ①251人 ②85人 ③158名
- ・支出額 1,903,490円

(2) 関係機関・団体に対する UN Women への協力促進活動事業

ア 国際的な協力・連携事業

内容 ①UN Women 国内委員会 ミーティングにオンラインにて理事が参加。

②UN Women 事務局長シマ・バフース氏来日に伴う懇談会

- ・日時 ①10月4日-6日 ②12月4日(日)
- ・場所 ① Zoom(オンライン開催) ② デラッセ
- ・従事者人員 ①2名 ②6名
- ・受益対象者 ①②世界の女性
- ・支出額 91,566円

イ UN Women 日本事務所との協力・連携事業

内容 UN Women 日本事務所との会合

- ・日時 4月7日、6月29日、7月28日、12月27日
- ・場所 Zoom(オンライン開催)
- ・従事者人員 5名
- ・受益対象者 世界の女性
- ・支出額 47,650円

ウ 外務省を始めとし各省庁・自治体・団体等との協力促進・連携事業

- 内容 ①スポーツ庁が実施しているスポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムに会員として登録していたが、東京オリンピック関連の終了とともに、活動は終了した。2023年度以降は登録しない。
- ②内閣府男女共同参画推進連携会議に団体推薦議員として理事が参加
- ③WEPs（女性のエンパワーメント原則）を推進する「WEPs日本連絡会」（構成団体：国連ウィメン日本協会、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）、日本BPW連合会、UN Women日本事務所）に理事が参加しWEPsの啓発・推進に関わる。
- ・日時 ①開催なし ②11月14日 ③1月13日
 - ・場所 ②：オンライン参加 ③オンライン参加
 - ・従業者人数 ② 2人
 - ・受益対象者 ②③ 一般市民
 - ・支出額 合計 19,060円

(3) 募金活動による UN Women への支援活動事業

ア UN Women への拠出のための（募金・寄付による）ファンドレイジング事業

内容 UN Women 募金・寄付金

年間を通して、会員・企業・団体・個人・協力協定団体等による募金・寄付活動が活発に行われた。

2022年度 UN Women 募金・寄付金総額 48,148,479円

2022年度 UN Women への拠出金額 35,938,594円(265,016.81ドル)

拠出金の内訳

- ① ウクライナ支援 31,250,637円(229,030.34ドル)
- ② アフガニスタン支援 375,000円(2,878.64ドル)
- ③ パキスタン支援 225,000円(1,727.18ドル)
- ④ ロヒンギャ難民キャンプ 1,837,957円(14,108.83ドル)
- ⑤ 女性に対する暴力撤廃国連信託基金 1,125,000円(8,635.91ドル)
- ⑥ コア 1,125,000円(8,635.91ドル)

- ・日時 募金・寄付は通年
- ・場所 全国
- ・従事者人員 14人
- ・受益対象者 世界の女性
- ・支出額 36,523,917円

(4) UN Women 及び国連ウィメン日本協会の名称・ロゴ使用に関する業務事業

ア UN Women 及び国連ウィメン日本協会の名称・ロゴの管理事業

- ・内容 UN Women 及び国連ウィメン日本協会・協力協定団体の名称・ロゴの使用に関し、協力協定団体、企業等に周知を図り管理・監督に努めた。協力協定団体ネットワーク会議は中止とした。

- ・日時 通年
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 一般市民 協力協定団体会員
- ・支出額 142,956円

2 その他の事業

(1) その他募金活動に関連する収益事業

本年度は実施していません。